

研究・調査報告書

報告書番号	担当
428	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, types of alcoholic beverages and risk of venous thromboembolism - the Tromsø Study. アルコール消費、特にアルコール飲料の種類と静脈血栓塞栓症の関係—Tromsø 研究	
執筆者	
Hansen-Krone IJ, Brakkan SK, Enga KF, Wilsgaard T, Hansen JB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Thromb Haemost. 106(2):272-278 (2011)	
キーワード	
アルコール、ワイン、静脈血栓塞栓症、疫学	
要 旨	
<p>中等度のアルコール摂取は心臓血管系疾患を防御することが示されている。しかし、アルコール摂取、特にアルコール飲料の種類と静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism : VTE) との関係は良く分かっていない。本研究の目的は、アルコール摂取やアルコール飲料の種類が VTE 発症の危険性にどのように関わっているか検討することである。1994-1995 に実施された Tromsø 研究に参加した 26,662 名 (25-96 歳) を対象として、そのアルコール摂取状況はアンケートによって収集した。対象者は VTE の発症を主要評価項目として、その後 2007 年 9 月 1 日まで追跡調査が行われた。</p> <p>平均 12.5 年間の追跡調査で、460 名が VTE を発症した。アルコール総消費量と VTE 発症の危険率との間に相関は認められなかった。しかし、1 週間に 3 単位以上の飲酒をしていた対象者で、非飲酒者と比較して VTE の危険性は 53% 上昇した (ハザード比 1.53、95% 信頼区間 : 1.00-2.33)。逆に、1 週間に 3 単位上のワインを摂取していた対象者では、VTE の危険率が 22% 低下していた (ハザード比 0.78、95% 信頼区間 : 0.47-1.30)。さらに、飲酒の種類としてリキュールとビールの摂取で補正した結果、ワインでより顕著な VTE 防御効果が認められた (ハザード比 0.53、95% 信頼区間 : 0.30-1.00)。大量飲酒の頻度が 1 週間に 1 回以上の対象者では、非飲酒者と比較して VTE の危険性は 17% 上昇 (ハザード比 1.17、95% 信頼区間 : 0.66-2.09) し、非大量飲酒者との比較では 47% 上昇 (ハザード比 1.47、95% 信頼区間 : 0.85-2.54) していた。</p> <p>リキュールの摂取と大量飲酒は VTE 発症の危険性を上昇させる。一方、ワインの摂取は VTE の危険性を低下させるものと考えられる。</p>	